

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511
岡崎市吹矢町88番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891
豊田市豊栄町6丁目1番地

建設業の66.3%で正社員不足

帝国データバンク調べ

帝国データバンクは5月23日、人手不足に対する企業の見解についての調査結果を発表した。社員が「不足」していると回答した企業は50.3%で、2018年4月から1.1%増加。4月としては過去最高を更新した。業種別では、不足感が強い上位10業種のうち8業種で1年前を上回り、人手不足感是一段の高まりを見せた。「建設」は前年比2.3%増の66.3%で5番目に不足感が強かった。正社員の不足状況と、従業員数別にみると、従業員数が「1000人超」の企業が63.1%でトップ。

次いで「301〜1000人」（61.5%）が続いた。一方、「5人以下」の企業は34.5%で、「1000人超」と28.6%の差が見られ、従業員数が多い企業ほど人手不足感が強い傾向となった。そのほか、2019年の業績見通しの下振れ材料として「人手不足の深刻化」を挙げた企業は39.0%にのぼり、「中国経済の悪化」（32.2%）や「消費税引き上げによる消費低迷」（30.3%）を上回って最も高かった。

5月から5%値上げ～国産針葉樹合板～

国内合板メーカーが原料高や運送コスト増などに苦しんでいる。メーカーはこの1年以上、ほぼ横ばいの販売を堅持してきたが、原料丸太や運送コストはそれぞれ約10%前後も上昇した。そのため、大手メーカーは5月末を目途に5%の値上げに向けアナウンスを開始。1年前から掲げる建値に向けて値上げを断行する構えだ。

「これまで合板の運送費はメーカーが負担してきたが、運賃は上がり続けている。待機時間や2人体制などコスト増要因が重なり、遠方まで運ぶとなると尚更だ。これ以上運賃コストが吸収できなくなると、合板もいずれ運賃別途の販売になるかねない」（合板メーカー）。

本の一部市場でも杉材は値上がり、東北でもカラ松丸太と杉丸太が値上がりしている。それでも合板メーカーはこの1年、販価をほぼ横ばいで推移させてきた。この数年は何度も需要増や年末ト工場の稼働も、

向けてB材杉丸太も上昇。九州ではこの1年で2割前後も値上がり、B材は大手製材工場向けラミナや製材工場、パイオマス発電向けチップ工場との取り合いが激化している。また、西日本は一部市場でも杉材は値上がり、東北でもカラ松丸太と杉丸太が値上がりしている。それでも合板メーカーはこの1年、販価をほぼ横ばいで推移させてきた。この数年は何度も需要増や年末ト工場の稼働も、

始のトラック不足などで供給難に陥ったが、それでもメーカーは安定価格・安定供給を確立するため販価の横ばいを堅持してきたが、いよいよ苦しくなった。建値は据え置き、流通価格の値上げを進めていく。新設住宅着工は、持ち家と分譲戸建ては好調だが貸家が急落している。そのため、木造全体では2019年1〜3月累計で前年比2.1%増と増加傾向にある。プレカット工場の稼働も、

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
	ファルカタ正寸12mm T2	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
	針葉樹12mm 3×6	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●

4月新設住宅着工

持家7カ月連続増加 駆け込みは限定的

国土交通省が5月31日発表した4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比5.7%減の7万9389戸となった。持家は増加したが、貸家と分譲住宅が減少したため総戸数は5カ月ぶりに減少した。季節調整済み年率換算値は、前月比5.8%減の93.1万戸。

利用関係別戸数は、持家が2万5436戸、前年同月比9.2%増で7カ月連続の増加となった。国土交通省では、増税を踏まえた各種支援策が出揃い、その内容も充実していることから駆け込み需要は限定的であるとの見方を示している。実際、前回の増税半年前の2013年10月は持家に前年同月比17.6%の大幅な増加がみられた。貸家は2万9511戸、前年同月比16.7%減で、8カ月連続の減少。分譲住宅は2万3411戸、同6.0%減で9カ月ぶりの減少となった。マンションは減少したが、一戸建住宅は3.0%増の1万2698戸で5カ月連続で増加した。

国産合板商況

国産針葉樹合板の荷動きは全国的に精彩を欠いている。国内合板メーカー各社の在庫量は多いとはいえない水準で推移しており、西日本では推し進められている。連休中も3日程度生産して在庫を確保する動きも出ていた。4月の合板統計を見てみると生産量と出荷量はほぼ均衡しており、5月はさらに在庫量は減少しているとの見方も。一方、需要環境もプレカット会社の受注も活発化しており、商社の販売枠も早い段階で埋まるなど需要環境も

悪くはない。しかし、現場での職人不足による仕事遅れやトラック不足による配送の遅延により、国内流通各社は荷動きの活発化を実感できない状況が続いている。このため、流通各社の口銭泣きや先決めなどによる市中価格の乱れも払拭されなかった。さらに、連休明け直後は新工場稼働により、安値玉が出るのではとの警戒感が市中に出たため、木建ルートを中心に買い控える傾向が強まった。こうしたなか、東日本

の大手合板メーカーは、向けてB材杉丸太も上昇。九州ではこの1年で2割前後も値上がり、B材は大手製材工場向けラミナや製材工場、パイオマス発電向けチップ工場との取り合いが激化している。また、西日本は一部市場でも杉材は値上がり、東北でもカラ松丸太と杉丸太が値上がりしている。それでも合板メーカーはこの1年、販価をほぼ横ばいで推移させてきた。この数年は何度も需要増や年末ト工場の稼働も、

この実需状況と、原料高や輸送コストの増加を受け、国内合板メーカーは値上げを打ち出した。木建ルートでは荷動きが復調していないだけに、新規価格がどの程度浸透するか注目される。丸太の調達では、規模が拡大した燃料用需要との競合が加速。特にパイオマス発電所の増加は、チップ工場の設備投資まで誘発している。

名古屋

針葉樹合板の荷動きは、直需系の需要が持ち直すなどムードが変化した。プレカット工場の稼働が順調で、構造用合板の消化が進み、新規受注が増えてきた。この実需状況と、原料高や輸送コストの増加を受け、国内合板メーカーは値上げを打ち出した。木建ルートでは荷動きが復調していないだけに、新規価格がどの程度浸透するか注目される。丸太の調達では、規模が拡大した燃料用需要との競合が加速。特にパイオマス発電所の増加は、チップ工場の設備投資まで誘発している。